

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7633	大正2年	秋の部	水に降る露かあらぬか夜の音	露	天文
7635	大正2年	秋の部	瀑布の句百合の句酒の句となりぬ	雑	雑
7636	大正2年	秋の部	筆把れバ書かざるまい踊るもの	踊	人事
7637	大正2年	秋の部	一語君に寄す秋涼しかろ / \	新涼	時候
7639	大正2年	秋の部	巖怒り水激す秋をはしる雲	秋	時候
7640	大正2年	秋の部	筆下虹あり秋の水飛ぶ五十尺	秋の水	地理
7642	大正2年	秋の部	この道のこの記事涼し潮の香	涼し	時候
7644	大正2年	秋の部	あらまほしきもの水引の花さへも	水引花	植物
7645	大正2年	秋の部	つぶて雲白し朝露晞きあり	露	天文
7647	大正2年	秋の部	芭蕉我を覆ふあり月の食を見る	芭蕉	植物
7648	大正2年	秋の部	稲黄ばめり日に漂へる雲一片	稲	植物
7650	大正2年	秋の部	野菊晴れて文庫の本を借來る	野菊	植物
7651	大正2年	秋の部	薪割りし筋の痛ミや秋の暮	秋の暮	時候
7652	大正2年	秋の部	物思ひ夜の芭蕉に手を觸るゝ	芭蕉	植物
7653	大正2年	秋の部	薪干して子等を使役す秋の風	秋の風	天文
7654	大正2年	秋の部	遠足帰り貝殻に又灯す秋	秋の灯	人事
7655	大正2年	秋の部	遠足の貝殻も夜寒山どころ	夜寒	時候
7657	大正2年	秋の部	驛樹晴れて友の話端を飛ぶ蜻蛉	蜻蛉	動物
7658	大正2年	秋の部	驛の樹を緒に情話飛ぶとんぼ	蜻蛉	動物
7659	大正2年	秋の部	秋出水丘の狐の憎まるゝ	秋出水	地理
7660	大正2年	秋の部	菊の竹に小鳥來つ風に又去りつ	小鳥	動物
7661	大正2年	秋の部	新酒甕に盈てり家訓壁にあり	新酒	人事
7662	大正2年	秋の部	師弟黙す栗のいが道墓辺道	栗	植物
7663	大正2年	秋の部	端近の新米後の月夜なる	新米	人事
7665	大正2年	秋の部	菊の戸明し家訓長へに在り	菊	植物
7667	大正2年	秋の部	菊の林酒の泉をためしとて	菊	植物
7740	大正3年	秋の部	天子赫怒秋風吹て雲飛揚	秋の風	天文
7741	大正3年	秋の部	豊年の蓼も野菊も盛哉	豊年	人事
7742	大正3年	秋の部	只芭蕉葉の聲をきく星月夜	星月夜	天文
7743	大正3年	秋の部	高灯籠の下を流るゝ水の音	燈籠	人事
7744	大正3年	秋の部	秋風やあからさまなる薬艸	秋の風	天文
7745	大正3年	秋の部	日々好日と杉の實干してあり	杉の實	植物
7746	大正3年	秋の部	一別以來消息もなし蚊帳名残	秋の蚊帳	人事
7747	大正3年	秋の部	白と明け黄と暮るゝ菊に無事の家	菊	植物
7748	大正3年	秋の部	菊日和稲埃人馬驚かず	菊	植物
7749	大正3年	秋の部	菊風雨戦場こゝを去る遠し	菊	植物
7750	大正3年	秋の部	巻を掩へバ庭前芭蕉裂くる音	破れ芭蕉	植物
7798	大正4年	秋の部	秋暑く栖む野の禽や羽虫見て	残暑	時候
7799	大正4年	秋の部	戸口掩ふ芭蕉の野分獨在り	野分	天文
7801	大正4年	秋の部	峯を離れし雲の行方や秋の水	秋の水	地理
7802	大正4年	秋の部	天子長壽を嘉し給へり菊の花	菊	植物
7803	大正4年	秋の部	菊の香や天杯下る賤が宿	菊	植物
7804	大正4年	秋の部	民もろ / \ 国中の菊の花に酔ふ	菊	植物
7805	大正4年	秋の部	菊の露をくすりと今日の壽詞哉	菊	植物
7806	大正4年	秋の部	老も病も吉日足日と菊に起つ	菊	植物
7807	大正4年	秋の部	菊尊黒酒白酒に耀けり	菊	植物
7808	大正4年	秋の部	舟はてゝ名月の帆をたゝみけり	名月	天文
7809	大正4年	秋の部	朝戸出の馬の肥へたり露しぐれ	露しぐれ	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
7810	大正4年	秋の部	海山の幸に菊照る國中哉	菊	植物
7811	大正4年	秋の部	民もろ / \ 菊といふ菊に酔にけり	菊	植物
7812	大正4年	秋の部	漁者樵者一輪の菊を仰ぎけり	菊	植物
7813	大正4年	秋の部	山量りの果の光拜みぬ	木の實	植物
7814	大正4年	秋の部	高光る日を浴びて新藁の山	新藁	人事
7816	大正4年	秋の部	酒は古く鯨を老とや來山忌	鯨	動物
7817	大正4年	秋の部	天津日の力を樹植う露しぐれ	露しぐれ	天文
7824	大正4年	秋の部	庭落葉渦いてやがて音もなし	落葉	植物
7825	大正4年	秋の部	報賽の又仰ぐ鐘やかへり花	歸り花	植物
7990	大正5年	秋の部	脛に草露や晨の鶏の聲	露	天文
7991	大正5年	秋の部	提灯に稻葉の露よ家に入る	露	天文
7992	大正5年	秋の部	魂棚の蓮も供物も干からびぬ	魂祭	人事
7993	大正5年	秋の部	喫茶帰路につく霧の月白し	霧	天文
7994	大正5年	秋の部	相撲見の早発ゆゝし霧の中	霧	天文
7996	大正5年	秋の部	比枝を左に老鶯や晝の月	老鶯	動物
7998	大正5年	秋の部	秋風に鞭うたれたる藜かな	秋の風	天文
8000	大正5年	秋の部	秋風にふるゝもの皆傷む哉	秋の風	天文
8002	大正5年	秋の部	秋風や父なる人の懷に	秋の風	天文
8004	大正5年	秋の部	山寺や木兎に石打つ秋の風	秋の風	天文
8005	大正5年	秋の部	秋風に偃す草起す獨哉	秋の風	天文
8006	大正5年	秋の部	白木槿言葉短く別れけり	木槿	植物
8007	大正5年	秋の部	野菊咲いて税吏至らぬ里もなし	野菊	植物
8008	大正5年	秋の部	鶏頻りに鳴いて朝露乾きけり	露	天文
8009	大正5年	秋の部	このあたりの草花折來糸瓜佛	草花	植物
8010	大正5年	秋の部	鯨釣の後に高き穂蓼哉	鯨釣	人事
8011	大正5年	秋の部	釣竿の長さ短き飛蜻蛉	蜻蛉	動物
8012	大正5年	秋の部	名月に小園の花ありやなし	名月	天文
8013	大正5年	秋の部	燕行く頃鬼灯の色づきぬ	鬼灯	植物
8014	大正5年	秋の部	蠅の別レ山上海を望みし今日	秋の蚊帳	人事
8015	大正5年	秋の部	客已に海越えつらむ扇置く	秋扇	人事
8016	大正5年	秋の部	路傍の紫蘇の香高く秋の風	秋の風	天文
8017	大正5年	秋の部	草花の残り少や雨に飽く	草花	植物
8018	大正5年	秋の部	掛稻に白雲高し山郭	掛稻	人事
8019	大正5年	秋の部	菊高く開かむとする山郭	菊	植物
8020	大正5年	秋の部	菊畑に立てバ風吹く衣かな	菊	植物
8021	大正5年	秋の部	菊の花高さを眉と齊うす	菊	植物
8022	大正5年	秋の部	風に吹かれ行く / \ 落穂拾ふ哉	落穂	植物
8023	大正5年	秋の部	谿水の里川となりぬ戸々の菊	菊	植物
8024	大正5年	秋の部	菊を見て安息日の講話哉	菊	植物
8025	大正5年	秋の部	草の実の各がじしゑむ徑かな	草の實	植物
8026	大正5年	秋の部	尾花くゞる小禽の行方曇りけり	芒	植物
8027	大正5年	秋の部	兒の群に吾兒の見えつ柿紅葉	柿紅葉	植物
8028	大正5年	秋の部	掲示板に夜學の事や柿紅葉	柿紅葉	植物
8029	大正5年	秋の部	串柿と栗の穂と日当る方の軒	雑	雑
8138	大正6年	秋の部	君が歌のさまに花咲く草の丈	草花	植物
8139	大正6年	秋の部	魂まつる花になりゆくや一穂草	魂祭	人事
8140	大正6年	秋の部	虫鳴けバしばらく虫の世界かな	蟲	動物
8141	大正6年	秋の部	初秋の空はしり雲斜なり	初秋	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8142	大正6年	秋の部	唐黍の葉に露上る夕餐かな	唐黍	植物
8144	大正6年	秋の部	新涼に夙起の煙藪をもる	新涼	時候
8145	大正6年	秋の部	新涼の小石や夜雨に露はれし	新涼	時候
8146	大正6年	秋の部	高山に神鳴りて角力盛也	角力	人事
8147	大正6年	秋の部	角力觀に山の奥より至りけり	角力	人事
8148	大正6年	秋の部	吾家の子が泣く聲や天の川	天の川	天文
8149	大正6年	秋の部	藪に家す人の起居や天の川	天の川	天文
8150	大正6年	秋の部	虫鳴くに熟睡しにけり帰省の子	蟲	動物
8151	大正6年	秋の部	晝の虫鳴いて香煙ますぐ也	蟲	動物
8152	大正6年	秋の部	鯉の子に翡翠飛べり稲の花	稲の花	植物
8153	大正6年	秋の部	材木を引くやとゞろと稲の花	稲の花	植物
8154	大正6年	秋の部	南瓜の花大きく咲いて霧あがる	霧	天文
8156	大正6年	秋の部	遠忌夜話露下る雨の如し	露	天文
8157	大正6年	秋の部	秋雨に撲たるゝ草の項かな	秋の雨	天文
8158	大正6年	秋の部	新涼に生れかほりし目鼻哉	新涼	時候
8159	大正6年	秋の部	あれ見よや汝に飛來る赤蜻蛉	赤蜻蛉	動物
8160	大正6年	秋の部	秋風や農事講話の人少な	秋の風	天文
8161	大正6年	秋の部	桐の葉越し黒雲すぐる夜半の秋	秋の夜	時候
8162	大正6年	秋の部	鰯賣見つゝや稗田刈急ぐ	稗	植物
8164	大正6年	秋の部	故人をまのあたり「野草花開」の語	草花	植物
8165	大正6年	秋の部	憎むべき毛虫はたきつ秋の風	秋の風	天文
8166	大正6年	秋の部	草花の種採り採らず秋しぐれ	秋時雨	天文
8167	大正6年	秋の部	風蕭颯たり南瓜棚ほぐす	南瓜	植物
8171	大正6年	秋の部	淋しき草悲しき草も咲きにけり	草花	植物
8172	大正6年	秋の部	秋風の吹いて紫蘇の實扱きこぼす	秋の風	天文
8174	大正6年	秋の部	穂芒も少なに雨の月の前	雨の月	天文
8175	大正6年	秋の部	樹枝飛んで野分の人顔傷む	野分	天文
8176	大正6年	秋の部	野分吹けども動かざる雲高し	野分	天文
8177	大正6年	秋の部	飄々と野分の花をくゝりけり	野分	天文
8179	大正6年	秋の部	靡く尾花を劍とも見む晴あり	芒	植物
8181	大正6年	秋の部	通草藪へ我よりも先に小禽かな	通草	植物
8182	大正6年	秋の部	秋風に馳下りけり暮るゝ山	秋の風	天文
8183	大正6年	秋の部	草臥れし裳の草の實に家の灯よ	草の實	植物
8185	大正6年	秋の部	吾大君にさゝぐべき菊開きけり	菊	植物
8186	大正6年	秋の部	山に對して歌無からめや菊佳節	明治節	人事
8187	大正6年	秋の部	佳節ほぐ子等也柿の小路より	明治節	人事
8188	大正6年	秋の部	穀物の地に墜つ悲し暮るゝ秋	暮の秋	時候
10511	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごころ	秋	時候
10659	大正6年	秋の部	吹く風の音さへ竹の秋ごころ	秋ごころ	天文
8327	大正7年	秋の部	石の秘の三千年や葛の花	葛の花	植物
8328	大正7年	秋の部	秋淺し藪伐れば栗の青毬も	秋淺し	時候
8329	大正7年	秋の部	實をもちて秋草となりぬ深山はや	秋の草	植物
8330	大正7年	秋の部	山道に憩へば秋の雲の影	秋の雲	天文
8331	大正7年	秋の部	花葛に身を没しけり道しるべ	葛の花	植物
8332	大正7年	秋の部	一竿を収めて霧のあがる見る	霧	天文
8333	大正7年	秋の部	鶏頭や今し釣來て小鯊焼く	鶏頭	植物
8335	大正7年	秋の部	秋風や一時にかゞむ草の骨	秋の風	天文
8337	大正7年	秋の部	新涼や骨輕々と鶴の如	新涼	時候

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8338	大正7年	秋の部	露けしや折りたく柴の乏しきに	露	天文
8339	大正7年	秋の部	満ちこぼるゝ一朝の露に目を張りぬ	露	天文
8340	大正7年	秋の部	祖父と孫としとゝ露けき草履哉	露	天文
8341	大正7年	秋の部	月一川鯊釣何ぞ歸らざる	鯊釣	人事
8342	大正7年	秋の部	月逾々蕎麦畑白し山廓	蕎麥花	植物
8343	大正7年	秋の部	東山の月に應對す讀書樓	月	天文
8344	大正7年	秋の部	來ぬ友の遠し無月の灯を挑ぐ	無月	天文
8345	大正7年	秋の部	すさましや露ふる樹下の破床几	露	天文
8346	大正7年	秋の部	夕草の咲き活きて月の出を望む	月	天文
8347	大正7年	秋の部	庭の月に見入れバ櫻落葉かな	月	天文
8348	大正7年	秋の部	夜半風起り無月の雲を掃ふ	無月	天文
8349	大正7年	秋の部	雨戸引けバ燈火無月の供物哉	無月	天文
8350	大正7年	秋の部	村のためこぞる青年や月の秋	月	天文
8351	大正7年	秋の部	一樹の影河心に届る月の前	月	天文
8352	大正7年	秋の部	月光に堪へて桐の葉の音もなし	月	天文
8353	大正7年	秋の部	夜長語る遠足の子の寝入りたり	夜長	時候
8354	大正7年	秋の部	星高し夜長の露の降りまさる	夜長	時候
8355	大正7年	秋の部	鱸獲し父を待ち得たり夜長の灯	夜長	時候
8356	大正7年	秋の部	フト覚むれバ尚靱磨の夜長なる	夜長	時候
8357	大正7年	秋の部	晝見し海を眼に夜長の室に在り	夜長	時候
8358	大正7年	秋の部	雨風や怖るともなく夜長守る	夜長	時候
8359	大正7年	秋の部	山の果の朱に紫に夜長の灯	夜長	時候
8360	大正7年	秋の部	夜長知らでうまみしにけり子等が國	夜長	時候
8361	大正7年	秋の部	夜長なる櫛の葉風の止まぬ哉	夜長	時候
8362	大正7年	秋の部	夜長歸る我に門樹のだまり立つ	夜長	時候
8363	大正7年	秋の部	夜長うして登高の苞披かれし	夜長	時候
8364	大正7年	秋の部	後の月も雨に夜長の獨哉	夜長	時候
8365	大正7年	秋の部	著るく飲けゆく月に夜々長き	夜長	時候
8366	大正7年	秋の部	紅葉ます / \ 濃く水いよ / \ 澄む	紅葉	植物
8367	大正7年	秋の部	白雲の浮べるまゝや草錦	草錦	植物
8368	大正7年	秋の部	家まばら石高道に柳散る	柳散る	植物
8370	大正7年	秋の部	幸にして菊尚枯れずあり	菊	植物
8371	大正7年	秋の部	落穂食む一鳥我に驚かず	落穂	植物
8514	大正8年	秋の部	花火消えて家路を思ふ三十里	花火	人事
8516	大正8年	秋の部	皆飛ぶに我もまじりぬ稻雀	稻雀	動物
8517	大正8年	秋の部	職人が早起きて居り露の中	露	天文
8518	大正8年	秋の部	鉄負ひしかぬちと逢ひぬ女郎花	女郎花	植物
8519	大正8年	秋の部	蟬鳴て驛道近し峠道	蟬	動物
8520	大正8年	秋の部	新涼に堪へて云ひつぐ神話哉	新涼	時候
8521	大正8年	秋の部	新涼や艶に消えたる揚花火	新涼	時候
8522	大正8年	秋の部	新涼やまばらに青き栗のいが	新涼	時候
8523	大正8年	秋の部	新涼に下草もなき社木哉	新涼	時候
8524	大正8年	秋の部	新涼や尚灯を慕ふ虫の数	新涼	時候
8525	大正8年	秋の部	新涼の郷思を載せて車哉	新涼	時候
8526	大正8年	秋の部	客のために石器運ぶや花葵	葵	植物
8527	大正8年	秋の部	蟬涼し神威に息を調ふる	蟬	動物
8528	大正8年	秋の部	新涼に高知る千木や雲見ゆる	新涼	時候
8529	大正8年	秋の部	水草の根は定まりぬ飛蜻蛉	蜻蛉	動物

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8530	大正8年	秋の部	水澄むや菱の葉強に秋の蝶	秋の蝶	動物
8531	大正8年	秋の部	蝨紛々物も思はぬ小百姓	蝨	動物
8532	大正8年	秋の部	暮るゝ戸や誰につき来て蝨ぬる	蝨	動物
8533	大正8年	秋の部	露はしりて當るべからず芋畑	芋	植物
8534	大正8年	秋の部	芒野に顧るおのれ獨かな	芒	植物
8535	大正8年	秋の部	野菊咲きつらなるに客と歡べり	野菊	植物
8536	大正8年	秋の部	落つる日を後ろになして山田刈る	稲刈	人事
8537	大正8年	秋の部	身にしむや稲妻老いし山の雲	稲妻	天文
8538	大正8年	秋の部	秋風に靡くなびかぬ千草哉	秋の風	天文
8539	大正8年	秋の部	秋風に堪へて物いはず渡守	秋の風	天文
8540	大正8年	秋の部	秋風に干竿の鳴る夜となりぬ	秋の風	天文
8541	大正8年	秋の部	秋風に顔うつむけて晩歸哉	秋の風	天文
8542	大正8年	秋の部	秋風や手にしかと持つ茱萸の枝	秋の風	天文
8543	大正8年	秋の部	月の雲はしり去り虫高く鳴く	蟲	動物
8544	大正8年	秋の部	秋の雨暮れなんと虹見ゆる	秋の雨	天文
8545	大正8年	秋の部	霧を見る晴定めつ柿梢	霧	天文
8546	大正8年	秋の部	霧漫々戸に偏りて秋海棠	秋海棠	植物
8547	大正8年	秋の部	夜栗量る隣を耳に讀書哉	栗	植物
8548	大正8年	秋の部	行く人皆掛稲にかくれけり	掛稲	人事
8549	大正8年	秋の部	夫婦して新藁高く積上げつ	新藁	人事
8550	大正8年	秋の部	渋柿に稲扱器械ひゞく也	柿	植物
8551	大正8年	秋の部	風北に変わり豆引働きぬ	豆引	人事
8552	大正8年	秋の部	さらぼうて穂蓼まじりぬ草錦	草錦	植物
8553	大正8年	秋の部	菊の露を冒し蓋食む小虫哉	菊	植物
8554	大正8年	秋の部	菊畑の天の一方山崇き	菊	植物
8555	大正8年	秋の部	花々葉々相寄りて菊光る哉	菊	植物
8556	大正8年	秋の部	杉の実干す人に分たむ契哉	杉の實	植物
8557	大正8年	秋の部	大方の紅葉が中の菊光る	菊	植物
8558	大正8年	秋の部	背戸の菊に徑してゆく杉林	菊	植物
8559	大正8年	秋の部	ゆく秋の小禽と道に別れけり	行秋	時候
8560	大正8年	秋の部	尾花ちるに非ずや後の月夜頃	芒散る	植物
8561	大正8年	秋の部	童子去れば小鳥が遊ぶ散銀杏	銀杏散る	植物
8563	大正8年	秋の部	秋の海矢聲沈みて八百年	秋の海	地理
8564	大正8年	秋の部	燕既に歸りつくしぬ晝砧	砧	人事
8565	大正8年	秋の部	女より高き穂蓼や晝砧	砧	人事
8566	大正8年	秋の部	砧きく古き夢路や奈良の月	砧	人事
8567	大正8年	秋の部	山鳴りの絶えし安堵の砧かな	砧	人事
8568	大正8年	秋の部	砧措きて灯にこぞりけり京便	砧	人事
8569	大正8年	秋の部	砧うちて大学に入る子勵ましつ	砧	人事
8570	大正8年	秋の部	砧うつや母の年忌の近づくに	砧	人事
8571	大正8年	秋の部	ひとり砧うち行ひすましけり	砧	人事
8572	大正8年	秋の部	世の中は砧もうたず月に笛	砧	人事
8573	大正8年	秋の部	山里や砧に馴れて狸など	砧	人事
8574	大正8年	秋の部	月に怨じ風に啣ちてぞ砧うつ	砧	人事
8575	大正8年	秋の部	嫗一人砧うつ狐狸のすみか哉	砧	人事
8696	大正9年	秋の部	分野秋涼し筆星硯星	新涼	時候
8697	大正9年	秋の部	初嵐人谿川を渉りゆく	初嵐	天文
8698	大正9年	秋の部	風簷を鳴らして天の川老いし	天の川	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8699	大正9年	秋の部	地にありて旱怖れつ天の川	天の川	天文
8700	大正9年	秋の部	詩人何に獨起きたり天の川	天の川	天文
8702	大正9年	秋の部	ころ / \ と我に虫鳴く門出哉	蟲	動物
8703	大正9年	秋の部	野路の虫鳴止まず我旅行くに	蟲	動物
8704	大正9年	秋の部	此清水護る神います杉嵐	秋の嵐	天文
8705	大正9年	秋の部	踊子の兒白々と稗田ゆく	踊	人事
8706	大正9年	秋の部	君にして踊らば誰か踊らざらん	踊	人事
8707	大正9年	秋の部	終夜一樹を繞る踊かな	踊	人事
8708	大正9年	秋の部	曉の霧踊の場を封じけり	踊	人事
8709	大正9年	秋の部	山一ツ越えて踊に通ひけり	踊	人事
8710	大正9年	秋の部	山陰の踊見せうぞ急げ馬	踊	人事
8711	大正9年	秋の部	灯も置かで踊の留守居したりけり	踊	人事
8712	大正9年	秋の部	踊果てつ牽牛織女あか / \ と	踊	人事
8713	大正9年	秋の部	姉妹の踊を戻る先後かな	踊	人事
8714	大正9年	秋の部	おぼ子十七踊は今ぞ笛もよし	踊	人事
8716	大正9年	秋の部	皆共に月を悲しきものと見む	月	天文
8718	大正9年	秋の部	此月に鬚眉耀かす人あらむ	月	天文
8721	大正9年	秋の部	一日無事なれば菊の主たり	菊	植物
8722	大正9年	秋の部	菊の苔大きくなりぬ霧の中	菊	植物
8723	大正9年	秋の部	朝戸出に菊恙なし禽も飛ぶ	菊	植物
8724	大正9年	秋の部	年々や籬落の菊に往返り	菊	植物
8725	大正9年	秋の部	菊畑に物の落葉の乾きけり	菊	植物
8726	大正9年	秋の部	後の月を市に泊りし山の人	後の月	天文
8727	大正9年	秋の部	朝寒に衣の塵を掃ひけり	朝寒	時候
8728	大正9年	秋の部	温かき飯振まひぬ菊の宿	菊	植物
8729	大正9年	秋の部	風菊を撼かして主客黙しけり	菊	植物
8731	大正9年	秋の部	君が菊星ともならで蒼む哉	菊	植物
8732	大正9年	秋の部	菊に喚べば杳かに鷹ふ孤ツ松	菊	植物
8733	大正9年	秋の部	物の葉を掃きてすてけり後の月	後の月	天文
8734	大正9年	秋の部	霧の海に鳴子の縄のゆくへ哉	鳴子	人事
8735	大正9年	秋の部	蓼赤し野川にたるむ鳴子縄	鳴子	人事
8736	大正9年	秋の部	鳴子鳴ってのそりと立ちぬ山の僧	鳴子	人事
8737	大正9年	秋の部	社鼓鑿々鳴子の縄のくも手哉	鳴子	人事
8738	大正9年	秋の部	いさゝかの粟田に鳴子物々し	鳴子	人事
8739	大正9年	秋の部	遠き案山子近き鳴子の構哉	雑	雑
8740	大正9年	秋の部	逢はぬ恋夜の鳴子を鳴らしけり	鳴子	人事
8741	大正9年	秋の部	かりそめの縄れの解けて鳴子かな	鳴子	人事
8742	大正9年	秋の部	引板鳴って鴻高く渡りけり	鳴子	人事
8743	大正9年	秋の部	稻妻に鳴子静まる小村哉	鳴子	人事
8744	大正9年	秋の部	山郭や落穂拾ひに日一ツ時	落穂	植物
8745	大正9年	秋の部	老の身を屈めて落穂あさる哉	落穂	植物
8746	大正9年	秋の部	畔草の錦の中の落穂哉	落穂	植物
8747	大正9年	秋の部	落穂拾ふ子に北國の雲低れつ	落穂	植物
8748	大正9年	秋の部	落穂拾うてゆく / \ 霰至りけり	落穂	植物
8851	大正10年	秋の部	朝寒の中に遠山鎮まりぬ	朝寒	時候
8852	大正10年	秋の部	骨を去らぬ登山疲レや初嵐	初嵐	天文
8853	大正10年	秋の部	子一人のため機織るや初嵐	初嵐	天文
8854	大正10年	秋の部	帳中の詩人の燈や初嵐	初嵐	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
8855	大正10年	秋の部	初嵐のなごり小庭の穂草哉	初嵐	天文
8856	大正10年	秋の部	初嵐秋海棠に及びけり	初嵐	天文
8857	大正10年	秋の部	家々の葉生姜茂り初嵐	初嵐	天文
8858	大正10年	秋の部	馬どころ馬皆美也初嵐	初嵐	天文
8859	大正10年	秋の部	客を送って潮をきゝつ初嵐	初嵐	天文
8860	大正10年	秋の部	物かげの秋海棠や初嵐	初嵐	天文
8861	大正10年	秋の部	女郎花の類ひ靡かず初嵐	初嵐	天文
8862	大正10年	秋の部	峠越す相撲の衆や初嵐	初嵐	天文
8864	大正10年	秋の部	白骨の白さ漾ふ露の中	露	天文
8865	大正10年	秋の部	朝寒や起きて文かく喪中人	朝寒	時候
8866	大正10年	秋の部	朝寒に花肥ゆるなり朝な / \	朝寒	時候
8867	大正10年	秋の部	朝寒を尚りん / \ と虫の声	朝寒	時候
8868	大正10年	秋の部	朝寒や早起に慣れて花を剪る	朝寒	時候
8869	大正10年	秋の部	虫更けてはや朝寒を催しぬ	朝寒	時候
8870	大正10年	秋の部	朝寒にから / \ と笑ふ家の兒等	朝寒	時候
8871	大正10年	秋の部	朝寒に狩得て悲し鮎の腹	朝寒	時候
8872	大正10年	秋の部	朝寒を提げ來る鱸らし	朝寒	時候
8873	大正10年	秋の部	朝寒の横雲割れて日を顔に	朝寒	時候
8876	大正10年	秋の部	ほくよみがやがらにすなる案山子哉	案山子	人事
8878	大正10年	秋の部	此水に鮎みずなりぬ花すゝき	芒	植物
8879	大正10年	秋の部	雲垂れて芒に道を得たりけり	芒	植物
8880	大正10年	秋の部	家を去る一里芒の旅心	芒	植物
8881	大正10年	秋の部	花芒案山子祭の客をまつ	芒	植物
8882	大正10年	秋の部	蟹寺に問答もなし花芒	芒	植物
8884	大正10年	秋の部	雨の如くつゆふる頃の事なりし	露	天文
8886	大正10年	秋の部	柿の味さめてゆく / \ 野菊見る	野菊	植物
8887	大正10年	秋の部	野菊さいて雀など飛ぶ古人の碑	野菊	植物
8888	大正10年	秋の部	祀られぬ案山子や野菊咲残る	野菊	植物
8889	大正10年	秋の部	日は山へ野菊に遊ぶ鳥もなし	野菊	植物
8890	大正10年	秋の部	我馬にむしり食はるゝ野菊哉	野菊	植物
8891	大正10年	秋の部	鐘の銘も野菊も古き世なりけり	野菊	植物
8892	大正10年	秋の部	野菊白く月東山に現はれし	野菊	植物
8893	大正10年	秋の部	掛稲にかくれて野菊盛哉	野菊	植物
8894	大正10年	秋の部	酒さめて野菊に家を顧る	野菊	植物
8895	大正10年	秋の部	旅行けバ野菊に愁ふ曇哉	野菊	植物
8897	大正10年	秋の部	ある時は菊圃に立ちて風をきく	菊	植物
8898	大正10年	秋の部	日嗣の皇子國見せさすや稲の秋	稻	植物
8900	大正10年	秋の部	掛稲やけふの足日に飛ぶ蠡	掛稲	人事
8901	大正10年	秋の部	掛稲も野菊もぬれつ通り雨	雑	雑
8902	大正10年	秋の部	稲人の安息日や菊膾	稻刈	人事
8903	大正10年	秋の部	稲積むや啄み足りて鶏歌ふ	稻刈	人事
8904	大正10年	秋の部	雲如錦神嘗の稲の秋	稻	植物
8905	大正10年	秋の部	門せまし稲扱機械柿落葉	稻こき	人事
8906	大正10年	秋の部	雁渡るかな掛稲の一郭	掛稲	人事
8907	大正10年	秋の部	稲の國粟の國八十神の國	雑	雑
8908	大正10年	秋の部	小提灯消さじと稲の露の中	稻	植物
9043	大正11年	秋の部	山霧の君が机を冒しけむ	霧	天文
9044	大正11年	秋の部	これより行け細道ながら露の中	露	天文

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9046	大正11年	秋の部	つゆの音きゝつ一時の叢に	露	天文
9048	大正11年	秋の部	玫瑰に草鞋の埃浴せけり	玫瑰	植物
9050	大正11年	秋の部	麻どころの麻引くを見て帰る也	麻刈	人事
9051	大正11年	秋の部	北上の流騒がしや銀河	天の川	天文
9052	大正11年	秋の部	著るく洪水引きぬ天川	天の川	天文
9053	大正11年	秋の部	燕の歸らで淋し古戦場	秋燕	動物
9054	大正11年	秋の部	經堂を出て目を張りぬ百日紅	百日紅	植物
9055	大正11年	秋の部	白露や扉を開く金色堂	露	天文
9056	大正11年	秋の部	関守の子等とも見えず麻を引く	麻刈	人事
9057	大正11年	秋の部	六郡を稻妻す也草枕	稻妻	天文
9058	大正11年	秋の部	新涼や北上に飛ぶ杉嵐	新涼	時候
9059	大正11年	秋の部	如是月夜と知りて鳴く虫か	蟲	動物
9060	大正11年	秋の部	鳴く虫を脅かしたる一葉哉	蟲	動物
9062	大正11年	秋の部	道の辺の虫に響鳴らしゆく	蟲	動物
9063	大正11年	秋の部	經堂を出て階や晝の虫	蟲	動物
9064	大正11年	秋の部	虫の音を耳に墓辺の草むしる	蟲	動物
9065	大正11年	秋の部	曾良は知らず象潟の虫鳴初めし	蟲	動物
9066	大正11年	秋の部	押寄する狭霧に堪へて虫の鳴く	蟲	動物
9067	大正11年	秋の部	鳴く虫の鈴振立つる水際哉	蟲	動物
9068	大正11年	秋の部	虫鳴くや天にかゞやく星の華	蟲	動物
9069	大正11年	秋の部	虫鳴いて神の扉を護りけり	蟲	動物
9071	大正11年	秋の部	亭の長老子に乞ひぬ南瓜の賛	南瓜	植物
9072	大正11年	秋の部	秋風に孤峭の肩を吹かれけり	秋の風	天文
9073	大正11年	秋の部	抽ンでゝ大きく揺るゝ穂蓼哉	蓼の花	植物
9074	大正11年	秋の部	ひら／＼と風掠め去る芒かな	芒	植物
9075	大正11年	秋の部	物蔭に蒼める艸や秋しぐれ	秋時雨	天文
9076	大正11年	秋の部	月あまり明きに虫の声まばら	蟲	動物
9078	大正11年	秋の部	益良夫ハ秋の帝の賜ぞ	秋	時候
9080	大正11年	秋の部	薯掘に酒を強ひけり山遊	自然薯掘る	人事
9081	大正11年	秋の部	草の花摘まで且つ見る愁哉	草花	植物
9082	大正11年	秋の部	山に遊びて家の灯を見る秋の暮	秋の暮	時候
9086	大正11年	秋の部	白に黄に後の雛衣めをと衣	後の雛	人事
9088	大正11年	秋の部	秋風や恃むものなき物の蔓	秋の風	天文
9089	大正11年	秋の部	夕日ぬくし紅葉にや酔ふ手弱女ら	紅葉	植物
9090	大正11年	秋の部	巖山の終日湿ふむら紅葉	紅葉	植物
9091	大正11年	秋の部	歌御會還御の後や夕紅葉	紅葉	植物
9092	大正11年	秋の部	詩稿焚くに折りてくべたる紅葉哉	紅葉	植物
9093	大正11年	秋の部	紅葉せぬ庭木の下に獨在り	紅葉	植物
9094	大正11年	秋の部	時しもあれ紅葉の爛れ霞打つ	紅葉	植物
9095	大正11年	秋の部	梅紅葉籬の菊へ徑かな	紅葉	植物
9096	大正11年	秋の部	豆腐買ひに紅葉の谿を出で来る	紅葉	植物
9097	大正11年	秋の部	紅葉敷きて筆硯を置くや紅葉狩	紅葉狩	人事
9098	大正11年	秋の部	雨過ぐる紅葉の林鹿もぬれつ	紅葉	植物